

第3回「健康長寿あいちの推進（平成29年11月30日開催）」の主な御提言に係る県の対応

主な御提言（要旨）	県の対応
健康づくりリーダーによる体操指導の対象を世代別で見ると、65歳以上の方がほとんど。「あいち巡（めぐ）りん体操」をもっとたくさんの方に知ってもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいち巡（めぐ）りん体操」は、平成26年度に（公財）愛知県健康づくり振興事業団と愛知県健康づくりリーダー連絡協議会が共同で制作しました。県では、あいち健康チャレンジ啓発イベントや健康づくりリーダー養成研修で「あいち巡（めぐ）りん体操」を取り入れるなど、引き続き機会をとらえて普及啓発に努めていきます。
お年寄りの中にもお年寄りを助けることができる人はいる。そういった人のほか、既存の組織を活用した見守り活動を積極的にやっていくべきではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の組織を活用した高齢者の見守りに関するネットワークの構築が一層進むよう、状況調査を行い、その結果を市町村へ還元するなどの働きかけを行っています。 ・県と金融機関等との間で締結した包括協定により高齢者の見守りに取り組んでいるほか、リーフレットの配布、ショートムービーを動画サイトで公開する等により、地域での支えあい大切さを伝える取組を実施し、その推進を図っています。
<p>企業として、クラウドを利用し病気の兆候を捉えるような研究開発を行っていききたい。</p> <p>楽しく生き生きと生活することも健康の一つ。メーカーとして、皆さんの意見を聞きながら、役に立つ商品を作っていきたい。</p> <p>高齢者をサポートする技術の開発について、技術者に高齢者が積極的に発言できる場があると良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康長寿などの将来成長が見込まれる分野において企業等が行う研究開発・実証実験について、「新あいち創造研究開発補助金」により支援しています。 ・企業や大学、自治体や福祉機関等で構成する「あいち健康長寿産業クラスター推進協議会」や「あいち福祉用具開発ネットワーク」において、モノづくり企業と医療・介護施設等とのマッチングを支援し、多様な意見が研究開発に役立てられるような体制づくりを進めています。 ・国立長寿医療研究センター内に設置した「あいちサービスロボット実用化支援センター」では、サービスロボットの実演展示により、来場者からご意見をいただいたり、利用者となる医療機関・介護保険事業所等へ出張し介護ロボットの実演を実施するなど、多様な意見を聞くことのできる体制づくりを行っています。
<p>銭湯は笑顔がたくさん集うコミュニティ。人と話す、笑う、とにかく外へ出るといった、認知症予防に効果のある場であると考えている。</p> <p>高齢者の方の居場所づくりが大事だと考えている。カフェという手段を用いて、シニアが生き生きとし、人が集まる居場所を作ること、新たな健康長寿産業になるのではないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防及び認知症予防には社会参加や対人交流の機会の増加等が重要であるため、各市町村において地域の特性を生かした様々な集いの場づくりが進められており、銭湯についても地域で有効活用されている事例の一つと認識しています。県としては、引き続き市町村の取組を支援し、高齢者が主体的に集う場づくりを推進していきます。 ・「認知症に理解の深いまちづくり」の実現を目指す「あいちオレンジタウン構想（平成29年9月策定）」では、高齢者の居場所づくりの一つとして、住民が運営する認知症カフェに認知症サポート医や介護職など地域の専門職がパートナーとして参画し、多世代の市民と専門職が相互に学びあうことのできるカフェづくりを進めていくこととしております。
<p>地域ケア会議に歯科衛生士が参加することで、要介護認定の削減につながったという報告もあり、愛知県でも参加する場が増えると良いと考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議の場で、必要に応じて歯科衛生士等の専門職の参画を図るよう、市町村職員や地域包括支援センター職員を対象とした研修会などにおいて呼びかけていきます。
<p>生活習慣の改善や健康長寿には野菜を多く摂取することがとても重要。知識だけでなく、実際に摂取する行動に移してもらおう工夫が必要ではないか。</p> <p>野菜の摂取量が増えないのは、食べる経験が足りないためではないかと考えている。自然に摂取できるような環境をつくるのが大切ではないか。</p> <p>幼児期からの食体験というのは重要で、保育園や学校できちんと食べるということを習慣付けることが大切ではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関心の低い方にも健康情報が届くよう、行政や大学、民間団体等が連携し、スーパーやコンビニエンスストア、飲食店、社員食堂など、生活に身近な場所で健康情報の発信を行うなど、健康づくりへの気運の盛り上げを図っています。 ・野菜の摂取を促進するため、野菜を多く使った料理のレシピを県内保健所や協力企業等を通じて配布しているほか、「あいちの農林水産フェア」や愛知県発祥の食品関連企業で組織する「あいち食育サポート企業団」が実施するイベント等で、野菜の摂取に関する啓発活動を実施しています。 ・子どもの食に対する理解の促進が図られるよう、「食育のための農林漁業体験学習実践マニュアル」や「地域協力者一覧」を作成し、地域の農業者と学校が連携し、計画的に体験学習が展開できるような環境整備を実施しています。 ・Webページ「食育ネットあいち」を通じ食育に関する情報発信を行っているほか、バランスの良い食事の大切さを子どもにわかりやすく伝える食育劇（※）「食まるファイブ」を地域や学校で活用いただけるよう、シナリオの提供や衣装の貸出しを行っています。 ・地域で食育を推進していただける方を「愛知県食育推進ボランティア」として登録し、愛知県食育推進ボランティアによる食育劇「食まるファイブ」の上演や郷土料理の紹介・実習などの活動を支援しています。

（※）食育劇：食育（健全な食生活を実践することができる人間を育てること）のための演劇